

編集の趣旨と特色

令和4年度版 高等学校「美術1」



POINT 1 表現のヒントになる「作家の手法」

POINT 2 質にとことんこだわった鑑賞題材

POINT 3 充実の巻末資料

POINT 4 多彩なQRコンテンツ

©令和4年度 教科書の題材構成 ©令和4年度版 検討の観点と内容の特色

内容解説資料

この資料は、一般社団法人教科書協会が定めた「教科書発行者行動規範」に則って作成したものです。

『令和4年度版
高等学校 美術1
教授資料』のご案内

作品解説から指導案まで、充実の内容で指導をサポート。掲示用ポスターや、デジタル資料を収録したDVDも付属しているので、指導の幅がぐっと広がります。

〔主な内容(予定)〕

- ◎年間指導計画作成のための資料
- ◎掲載作品・作家解説
- ◎教科書題材に沿った学習指導案・実践事例
- ◎DVD(音声ガイドや技法動画、ワークシート集など充実のデジタル資料)
- ◎掲示用ポスター2種

著作者

酒井忠康〔美術評論家・世田谷美術館館長〕

伊藤有希〔アニメーション作家・東京藝術大学大学院教授〕

上野行一〔元高知大学教授〕

O J U N〔画家・東京藝術大学教授〕

勝井三雄〔グラフィックデザイナー〕

川上典孝子〔デザインジャーナリスト・21_21 DESIGN SIGHT アソシエイトディレクター〕

黒木 健〔元秋田県立西目高等学校教諭〕

近藤誠一〔元文化庁長官〕

菅沼 聖〔山口情報芸術センター 主任エデュケーター〕

鈴木雅之〔宮城県栗田郡川崎町立富岡中学校教頭〕

タカザワケンジ〔写真評論家〕

立川公子〔神奈川県立多摩高等学校教諭〕

直江俊雄〔筑波大学教授〕

中島千波〔日本画家・東京藝術大学名誉教授〕

名取和幸〔色彩学研究者・一般財団法人日本色彩研究所常務理事〕

野田弘志〔画家・広島市立大学名誉教授〕

藤原えりみ〔美術ジャーナリスト〕

舟越 桂〔彫刻家・東京造形大学客員教授〕

三沢厚彦〔彫刻家・武蔵野美術大学教授〕

森田りえ子〔日本画家・京都市立芸術大学客員教授〕

森山明子〔デザインジャーナリスト・武蔵野美術大学教授〕

諸川春樹〔多摩美術大学教授〕

安村敬信〔一般財団法人北斎館館長〕

渡辺晋輔〔国立西洋美術館学芸課長〕

カラーユニバーサルデザインに関する校閲

市原恭代〔工学院大学准教授・NPO 法人カラーユニバーサルデザイン機構(CUDO)理事〕

特別支援教育に関する校閲

佐島 毅〔筑波大学准教授〕

編集協力

岩佐まゆみ〔大分県立大分西高等学校教諭〕

加藤浩司〔三重県立飯野高等学校教諭〕

佐々木秀夫〔宮城県宮城第一高等学校教諭〕

丹羽 裕〔宮城県宮城野高等学校教諭〕

◎ウェブサイトのご案内

令和4年度版 高等学校「美術1」教科書に関する情報や、授業づくりに役立つ教授用資料を随時アップしていきます。

www.mitsumura-tosho.co.jp/kyokasho/k_bijutsu/index.html

内容解説資料 発行者：吉田直樹 発行所：光村図書出版株式会社 〒141-8675 東京都品川区上大崎2-19-9 電話：03-3493-2111(代表)

光村図書ウェブサイト：www.mitsumura-tosho.co.jp 印刷：梅田印刷株式会社 デザイン：浅井史生〔PANKEY Inc.〕 イラスト：朝野ベコ(P.13) 写真：竹達照夫

QRコードは(株)デンソーウェアの登録商品です。

美術2 38光村 美Ⅱ 303

自己を深め、
視界をひらく美術。



美術2 教授資料

38光村 美Ⅱ 303 教科書対応



〔主な内容〕

- ◎年間指導計画作成のための資料
- ◎掲載作品・作家解説
- ◎教科書題材に沿った学習指導案・実践事例
- ◎DVD(鑑賞図版やワークシート集、インタビュー 動画など充実のデジタル資料)

美術3 38光村 美Ⅲ 303

社会で生かされる
美術の力。



美術3 教授資料

38光村 美Ⅲ 303 教科書対応



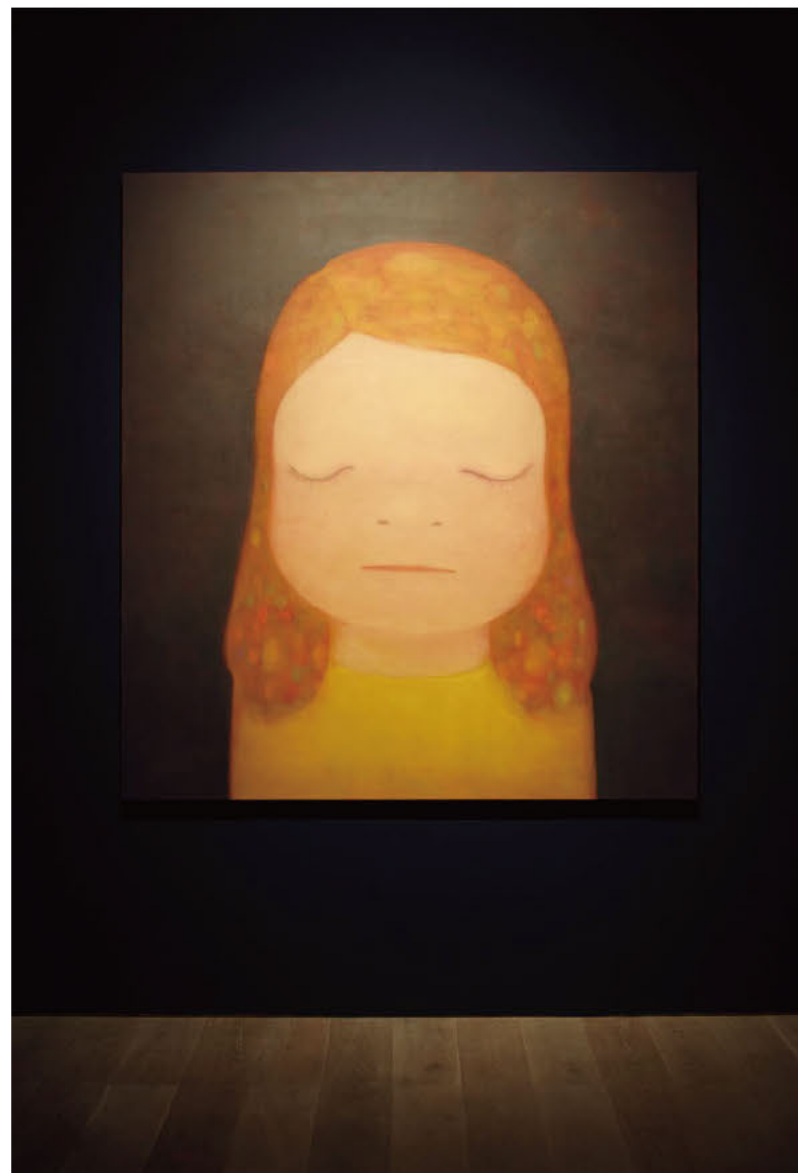
〔主な内容〕

- ◎年間指導計画作成のための資料
- ◎掲載作品・作家解説
- ◎教科書題材に沿った学習指導案・実践事例
- ◎ARコンテンツなど 充実の関連動画資料のご案内

光村図書

月明かりの中を歩くと、 いろいろな考えごとができた

表紙の作品について



Miss Moonlight
キャンヴァス、アクリル
245×222cm 2020年
「STARS展：
現代美術のスタ たち
ー日本から世界へ」
での展示風景
森美術館(東京都)
奈良美智
[1959～ 青森県出身]
撮影：高山幸三 画像提供：森美術館

教科書の表紙に掲載された「Miss Moonlight」(2020年)は、奈良美智の最新作。月明かりに照らされた故郷・青森の雪景色をイメージして描かれた。

この作品について奈良は、次のように語っている。「雪が積もった満月の夜はすごく明るいんです。太陽の光は強すぎるけど、月の光は安心感がある。幼い頃、日が暮れて月明かりの中を歩くと、いろいろな考えごとができました。本を読んだり、じっくり考えごとができる冬は、自分にとって大切な季節。この作品は、月を見ている人が月明かりの中でどんなふうに瞑想し、もの考えるかを想像しながら、鑑賞者のポートレートとして描きました」。

「もっとつくりたい, もっと見てみたい」

教科書を開いた生徒がもっと「つくりたい!」「見てみたい!」と思えるような紙面を目指しました。

基本的な紙面構成

題材名

題材名は、生徒に伝わりやすく簡潔な言葉で示しました。

目標

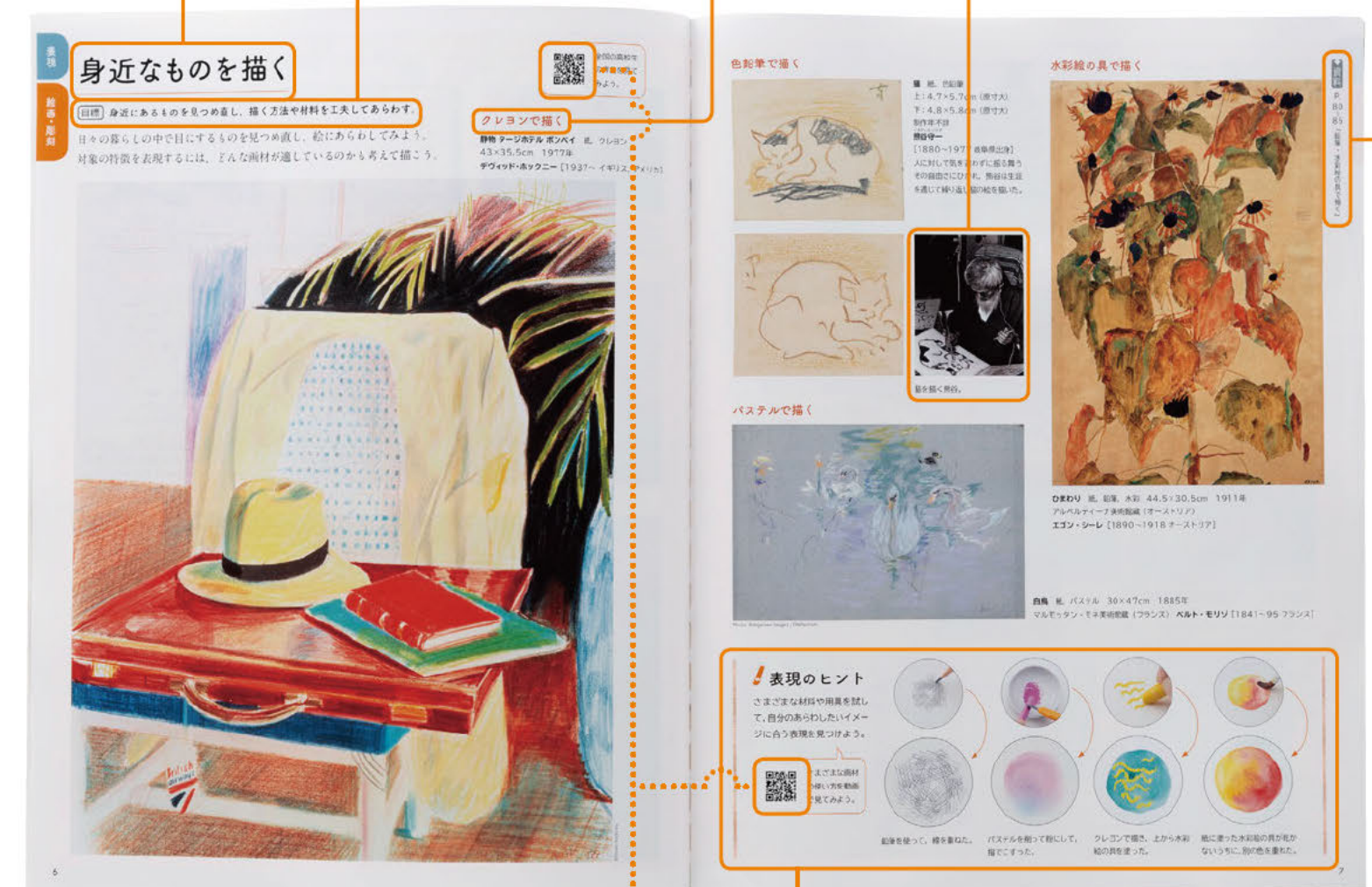
その題材で身につける力をわかりやすく示しました。

観点の明示

掲載作品を見る観点を、小見出しで示しました。

作家情報

制作する作家の様子や、作家の言葉、アイデアスケッチなどを適宜掲載しています。



P.6～7「身近なものを描く」

QRコード

技法動画、全国の生徒作品、音声ガイドなど、さまざまなコンテンツにリンクしています。

➡ 詳しくは本資料 P.14

表現のヒント

具体的な表現方法を紹介するコーナーを設けました。

巻末資料のリンク

関連する巻末資料をすぐに参照できるよう、リンクを示しました。

➡ 詳しくは本資料 P.10

POINT 1 表現のヒントになる「作家の手法」

「作家の手法」では、生徒の発想や構想のヒントになるよう、作家が作品をどのように発想し、どうつくりあげていくのかを詳しく紹介しています。

編集部
ここがこだわり！

アトリエを何度も訪れ、作品ができるまでの過程を取材し、詳しく紹介しています。

編集部が何度もアトリエに来て密着取材したページです。掲載作品は教科書のためにつくった新作です。

彫刻家
みさわあつひこ
三沢厚彦



P.40~41
「生命感をあらわす 作家の手法
三沢厚彦」

アイデアスケッチ

作家がどのように作品を発想したのかがわかるよう、アイデアスケッチを多く掲載しています。

アトリエの様子

作家の個性があらわれるアトリエで、普段の制作の様子を撮影しました。

制作過程

一つの作品が生まれるまでの過程を丁寧に取材・撮影して、紹介しています。

作品ができるまで



[完成作品]
Animal-2020-01
クスノキ、油彩 高さ76cm 2020年

作品ができる
までを動画で
見てみよう。

QRコード

作家の制作している様子を動画で視聴することができます。

「作家の手法」一覧

第一線で活躍されている作家の方々にご協力いただき、作品ができるまでの過程を詳しく紹介しています。

画家
あさひ ゆうすけ
浅井裕介 …… P.4~5

日本画家 (新作)
なかじま ちなみ
中島千波 …… P.8~9

画家
つがみ
津上みゆき …… P.24~25

画家
えんどうあきこ
遠藤彰子 …… P.28~29

美術家
よこお だのり
横尾忠則 …… P.35

グラフィックデザイナー
さとう たく
佐藤 卓 …… P.50~51

グラフィックデザイナー
ひろむらまさあき
廣村正彰 …… P.53

デザイナー
みながわ あきら
皆川 明 …… P.57

アニメーション作家
いとうゆういち
伊藤有彦 …… P.76

POINT 2 質にとことんこだわった鑑賞題材

和紙風の用紙に印刷

本物に近い風合いで日本美術の作品を鑑賞できるよう、和紙風の用紙に印刷しました。



P.13~14「墨で描く」

ダイナミックな鑑賞図版

曽我蕭白の「雲龍図」を3ページにわたって大きく掲載。かすれ、にじみなど、墨の多様な表現をじっくり鑑賞することができます。



和紙のような質感

実際に手で触ると、質感の違いがよくわかります。



右の場面からの続きで、かみついていたカエルがウサギを投げ飛ばしている。

カエルとウサギが相撲を取っている。かみつきは、本来禁じ手とよばれる反則だ。

編集部 ここがこだわり！

本物に近い風合いを再現するため、さまざまな紙をテストし、最終的に越前和紙の風合いをもつ高級用紙を選びました。

「鳥獣人物戯画 甲巻」をすべて掲載

「鳥獣人物戯画」の中でも特に人気のある甲巻を、始めから終わりまですべて掲載。ストーリーを考えながら鑑賞することができます。

鑑賞が深まる解説

より鑑賞を深められるよう、適宜吹き出しで解説を入れています。



絵巻物を楽しむ

絵巻物は、右から左へと物語が進んでいく。P.15の上段から、左に向かって読み進めよう。

【目録】鳥獣人物戯画 甲巻を鑑賞し、絵巻物の楽しみ方をおもしろく工夫を凝らす。

絵巻物とは、軸に巻かれた横に長い紙で、物語が描かれたものだ。「鳥獣人物戯画」は全4巻の絵巻物。動物を擬人化してユーモアたっぷりに描いた甲巻が特に有名だ。情豊かな動物の世界を楽しもう。

ウサギとカエルが、おどろおどろしい相撲をしている。カエルは、ウサギの尻尾を掴んでいる。

カエルがカエルにカエルが描かれている。カエルは、カエルにカエルが描かれている。

カエルがカエルにカエルが描かれている。カエルは、カエルにカエルが描かれている。

カエルがカエルにカエルが描かれている。カエルは、カエルにカエルが描かれている。

P.15~18「絵巻物を楽しむ」

比べて鑑賞する

複数の作品を比較鑑賞する題材を設けました。共通点や違いを感じ取ったり、感じたことを話し合ったりすることができ、作品への理解を深めることができます。

編集部
ここがこだわり！

質の高い図版をじっくり鑑賞できるよう、印刷にもとことんこだわりました。本物に近い色が出るまで、何度も色の確認を行っています。

比較鑑賞でもっと深まる

組み合わせて描かれた
日本と西洋の作品を比べて鑑賞し、
それぞれのよさを味わうことができます。

「比べて鑑賞する」一覧

P.10～11 「^{ます}櫛や点で描く」

画面を方眼のように区切って描いた
「樹花鳥獸図屏風（伊藤若冲）」と、色彩豊かな
点描の作品「グランド・ジャット島の日曜日の午後」
（ジョルジュ・スーラ）を比べて鑑賞する題材です。

P.60～61 「スプーンのデザイン」

さまざまな形や材料のスプーンを比べて鑑賞し、
使う場面や目的によって、どのような
デザインの工夫がされているかを考える題材です。



P.68～69 「人を撮る」

土門 拳と植田正治という、被写体への
向き合い方が異なる二人の写真家の作品を鑑賞し、
表現の違いを味わう題材です。



土門 拳「しんこ細工 東京・浅草雷門」



植田正治「パパとママとコどもたち」

比べて鑑賞する

組み合わせる

目標

組み合わせて構成した作品を比較し、それぞれのよさを感じ取る。



上：夏 板、油彩 67×50.8cm 1563年 ウィーン美術史美術館蔵（オーストリア）ジュゼッペ・アルチンボルド [1527頃～93 イタリア]
右：みかけはこはあがとんだいゝ人だ 紙、多色刷り木版 約35.5×24.8cm 1847年 山口県立美術館・浦上記念館蔵 歌川国芳 [1797～1861]



野菜や果物などを組み合わせた作品と、人物を組み合わせた作品とを比べてみよう。



「夏」みかけはこはあがとんだいゝ人だの音声ガイドを聞いてみよう。

POINT 3 充実の巻末資料

見やすい、わかりやすい技法資料

高校の美術で使われるほぼすべての技法を掲載しました。

他にも〔共通事項〕に関する資料、発想の広げ方や美術史など、必要なときに参照できる資料を網羅しています。

編集部
ここがこだわり！

技法のポイントがひと目でわかるように、レイアウトや写真の見せ方を工夫しました。

QRコードで動画を確認

QRコードから、動画で技法を確認することができます。

➡ 詳しくは本資料 P.15



巻末資料 目次

- ◎さまざまな絵の具
- ◎鉛筆で描く **A**
- ◎水彩絵の具で描く
- ◎油絵の具で描く
- ◎アクリル絵の具で描く **B**
- ◎日本画の絵の具で描く
- ◎版画の技法 **C**
- ◎彫刻（塑造）の技法
- ◎文字をデザインする
- ◎写真を撮影する
- ◎映像を撮影する
- ◎発想の広げ方
- ◎美術館を楽しむ **D**
- ◎美術鑑賞を楽しむ手がかり
- ◎美術史年表 **E**
- ◎デザイン史・写真史年表 **F**
- ◎色の特徴を知ろう
- 色の性質
- 色の効果
- 配色のヒント
- ◎切り離し式資料
- 混色のヒント
- 色彩図鑑

表現・鑑賞
すべての題材に関連する
色の資料がパワーアップ！
〔詳細は次ページへ。〕

吹き出しでワンポイントアドバイス

各手順のポイントを、吹き出しでわかりやすく示しました。

手順を横一列で

技法の手順がひと目で捉えられるよう、横一列で示しました。

使う用具をわかりやすく

その技法で使う用具を一点ずつ撮影し、整理して配置しました。

水彩絵の具で描く

水で溶かして使う水彩絵の具は、最も身近な絵の具だ。水の効果や筆の使い方によって多彩な表現ができる。使い方を工夫して、さまざまな表現に挑戦しながら、身の回りの風景などを描いてみよう。

モチーフ

水彩で風景を描く手順を動画で見てみよう。

ラフスケッチをして、構図を決めておく。レンガの建物と、建物や地面にかかる木立ちを通した光を描きたい。

おおまかに色を置いていくときには、筆を長めに持つとよい。全体の統一感を意識して配色する。

木の幹は、先に水を塗った上に、色のついた絵の具を重ねる「にじみ」の技法で表現した。

①鉛筆で下描きをする
水彩絵の具は描き直しが難しいので、下描きの段階で、しっかり形を取っておく。色を塗る前に余分な線は消す。

②空や遠景を下塗りする
描き始めは、空や遠景、手前の暗くなる部分など、大きな面に薄く溶いた絵の具でおおまかに色を置いていく。

③中心のモチーフを描く
下塗りの絵の具が乾いたら、近景と中心となるモチーフに色を入れていく。いちばん明るい部分は白く残すようにする。

④樹木や陰影に色を重ねる
タッチや色を変化させることで、樹木の種類や葉の形の違いを表現する。影には他の場所に塗った色を使うと、全体のバランスが取れる。

⑤細部を描き込む
下の絵の具が完全に乾いてから、細筆で細部を描き込む。建物と地面が接する部分を丁寧に描くことで、画面の安定感が増す。

木の幹のこぶこぶを「スパッタリング」の技法で表現した。

木の枝は「洗い出し」の技法で白く抜いた。

奥の濃い緑は、絵の具を塗ってから水を重ねてぼかすことで、背景の中に溶け込ませた。

⑥完成
制作時間は約5時間。B3判（36.4×51.5cm）の画用紙に描いた。完全に乾いた後、水張りで使用したパネルから外した。

レンガの境目の筋は、平筆を縦にして、スタンプのように使うことで表現した。

>> 主に使用する用具

水彩絵の具は、乾いても水に溶いて使うことができる。作業のたびにパレットを洗わずに、パレットの小さな枠にあらかじめ絵の具を出しておくとうい。

画用紙 水張りしてパネルに固定した。

パレット

消しゴム、練りゴム

筆洗

筆

鉛筆

雑巾

>> 水張りの方法

画用紙は、描いているうちに水を含んで波打つようになる。事前に水張りをしておくと、それを防ぐことができる。

①画用紙の裏側に、刷毛などで水をまんべんなく塗る。

②裏に返し、布で中心から外に紙を伸ばし、湿らせた水張りテープでパネルや画板に固定する。

>> 色をつくる

自然な色合いを出すには、色を混ぜて使うとよい。

●混色
絵の具を混ぜて色をつくる。パレットで混ぜて色合いを調整。

●重ね色
絵の上で色を重ね、別の色にする。下の絵の具が乾いてから、絵の具を塗り重ねる。

●水の量
水の量を増やしていくと、紙の色が透けて見えなくなる。白い紙に書く場合は、白を混ぜるのではなく、水を溶かすことで淡い色にする。

>> 水彩絵の具の技法

水彩絵の具は、水の使い方などを工夫することで、独特な表現を生み出すことができる。

●にじみ
水や絵の具が乾く前に、上から別の絵の具を塗る。

●ぼかし
絵の具が乾く前に、上から水を含ませた筆でなでる。

●洗い出し
乾いた絵の具の上を、水を含ませた筆などでなぞり、その部分の絵の具を洗い出す。

●スパッタリング
絵の具をつけた筆を揺ったり、歯ブラシにつけて弾いたりして、飛まつをつくる。

POINT 3 充実の巻末資料

切り離し式資料「混色のヒント&色彩図鑑」

新版教科書は、新学習指導要領で重視されている〔共通事項〕の学習に役立つよう、色に関する資料を豊富に掲載しています。

巻末には切り離し式の資料をご用意しました。

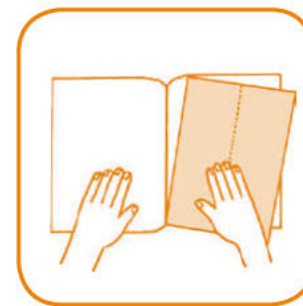
表現・鑑賞
どちらにも使える
色の資料
が大充実！



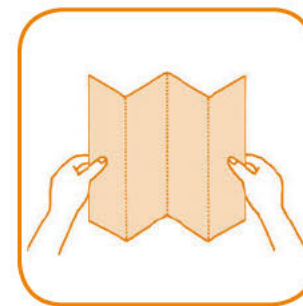
表面

混色のヒント

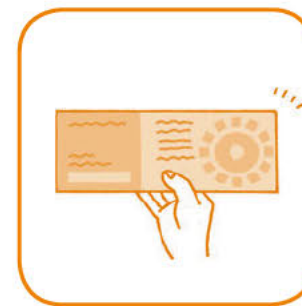
色相環を意識して、
どのような色になるかを考えるための資料です。



1
切り離す
ミシン目に沿って、
教科書から
切り離します。



2
折りたたむ
点線に沿って
折りたたみます。



3
活用する
絵を描くとき、
ポストの配色を
考えるときなど、
さまざまな場面
でお使いください。



コンパクトだから、気軽に活用できる

コンパクトなので、絵の具セットと一緒に保管し、
制作の際にすぐ取り出して活用できます。

裏面

色彩図鑑

色名やその由来がわかる

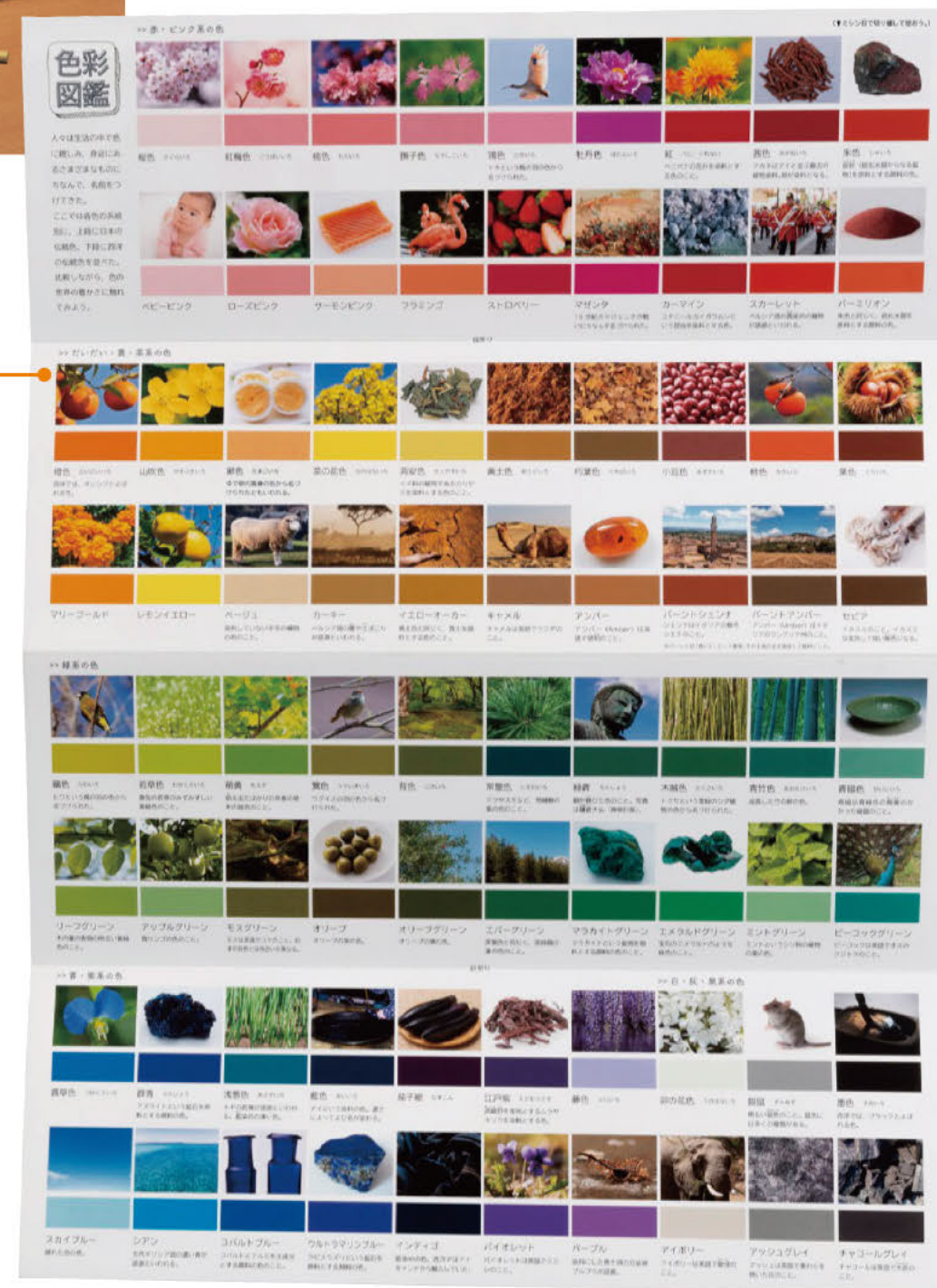
「日本の伝統色」「西洋の伝統色」を
対比して掲載。

色を選ぶときのヒントになるほか、
色名の由来も知ることができます。



西色 あかねいろ
アカネはアイと並ぶ最古の
植物染料。根が染料となる。

スカーレット
ペルシア語の西染めの織物
が語源といわれる。



POINT 4 多彩なQRコンテンツ

題材の随所に、QRコードを掲載。学びが広がるウェブコンテンツにリンクしています。

鑑賞を深める 音声ガイド …… 全9本

大きく取り上げた鑑賞題材には、音声ガイドをご用意しています。
映像付きの本格的な作品解説なので、授業はもちろん、自主学習にも役立ちます。

トップページは
こちらから。➡



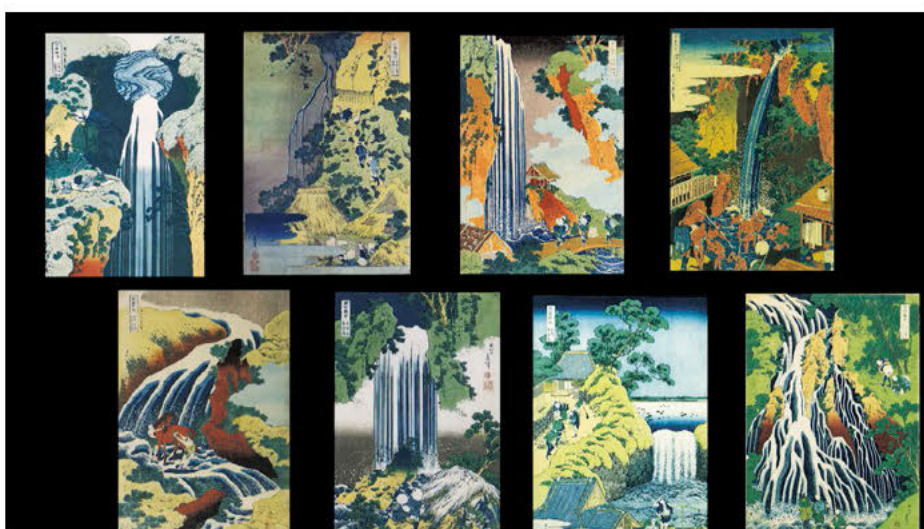
編集部
ここがこだわり！

作品の時代背景や作家の表現の工夫など、鑑賞が深まる内容を3分程度にぎゅっと凝縮しました。



北斎の滝を描いたシリーズ「諸国瀧廻り」の説明や、モデルになった滝の映像などをまとめた、作品の理解を深める動画です。

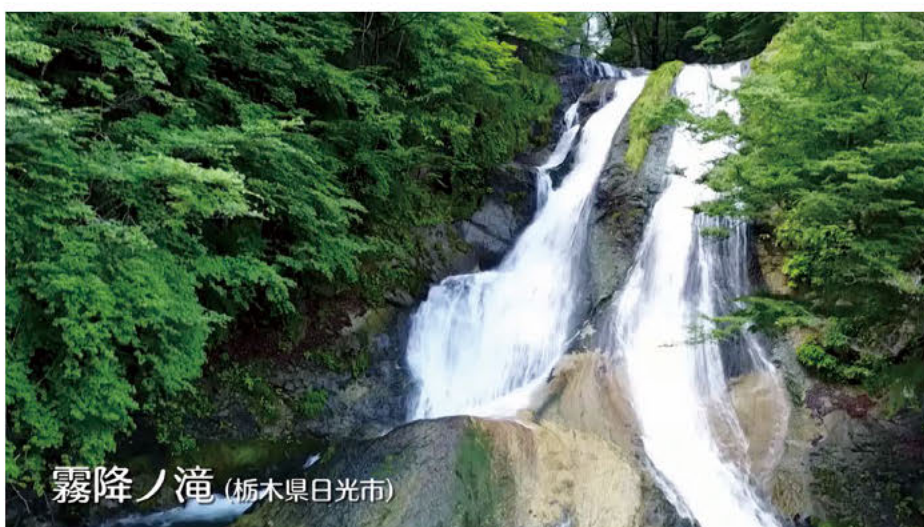
【画面】



「諸国瀧廻り 下野黒髪山きりふりの瀧」(葛飾北斎)

【音声】

崖の上から、勢いよく流れる大きな滝。
江戸時代に活躍した
浮世絵師・葛飾北斎の作品です。
この絵は日本全国の有名な滝を
八つ収めた「諸国瀧廻り」という
木版画シリーズの1枚、
日光の霧降ノ滝をあらわしたものです。
実際の霧降ノ滝を見てみましょう。
高さ75メートル。
ごつごつした岩に水が当たり、
まるで霧が降るように流れ落ちることから、
この名前がついたといわれます。(以下略)



霧降ノ滝 (栃木県日光市)

技法動画 …… 全16本

鉛筆デッサン、水彩画、油彩画、塑造など、よく使われる技法の解説動画をご用意しています。
自主学習の際にも、必要な技法を何度も確認することができます。



作品ができるまでの全工程がわかる「早回し動画」もご用意。
重要な箇所には解説のテロップが入っているので、技法のポイントをしっかり押さえられます。

水彩絵の具で風景を描く



平筆をスタンプのように使って筋を描くこともできる

作家関連動画 …… 全7本

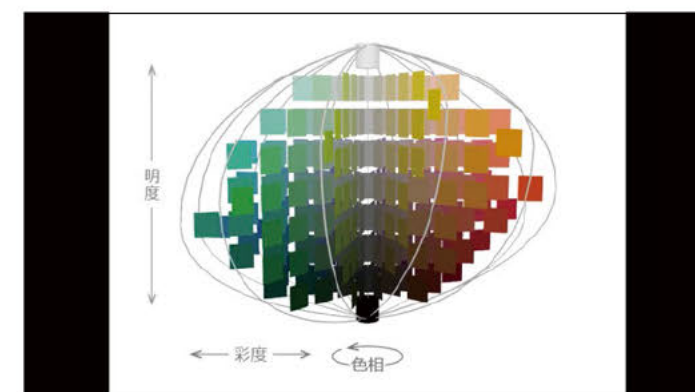
作家のインタビュー映像や、掲載作品の制作過程、作品に関連した映像などを見ることができます。



画家・浅井裕介インタビュー

色の資料 …… 全4本

色について深く学べるCG動画やアニメーションなどを見ることができます。



色立体を知ろう

全国の生徒作品 …… 170点以上

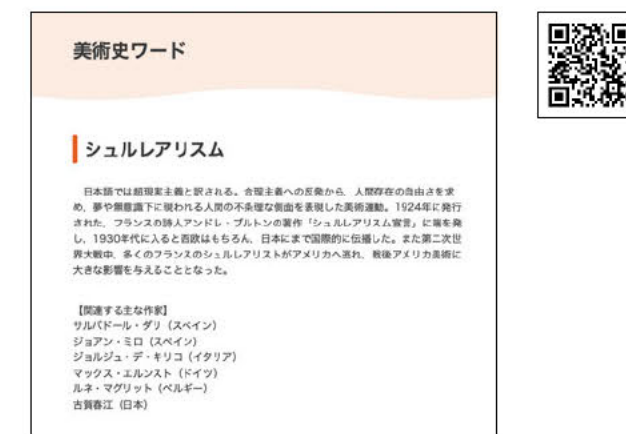
全国の高校生の作品を、作者の言葉とともに
見ることができ、生徒が自分の表現に生かれます。



クリックすると、拡大画像と作者の言葉を見ることができます。

美術史ワード …… 全42項目

美術史に関連する用語をわかりやすく解説。
美術用語辞典のように活用できます。



ページ	分野等	題材
P.2～3		目次／前書き
P.4～5	はじめに	作家の手法 浅井裕介
P.6～7	絵画・彫刻	●身近なものを描く
P.8～9		作家の手法 中島千波
P.10～11		◆[比べて鑑賞する] 樹や点で描く
P.12～14,19		●墨で描く
P.15～18		◆絵巻物を楽しむ 鳥獣人物戯画
P.20～21		◆[作家の生涯と作品] 葛飾北斎
P.22～23		●風景を描く
P.24～25		作家の手法 津上みゆき
P.26～27		●想像した世界を描く
P.28～29		作家の手法 遠藤彰子
P.30～31	デザイン	◆[比べて鑑賞する] 組み合わせる
P.32～34		●自己をあらわす ※映像メディア表現を含む
P.35		作家の手法 横尾忠則
P.36～37		◆仏像の美
P.38～39		●生命感をあらわす
P.40～41		作家の手法 三沢厚彦
P.42～43		●場所との対話
P.44～47		◆[作家の生涯と作品] バプロ・ピカソ
P.48～49	映像メディア表現	●メッセージを広く伝える
P.50～51		作家の手法 佐藤 卓
P.52		●マークやサインで伝える
P.53		作家の手法 廣村正彰
P.54～56		●文様で飾る
P.57		作家の手法 皆川 明
P.58～59		●パッケージのデザイン
P.60～61		◆[比べて鑑賞する] スプーンのデザイン
P.62～63		◆空間をデザインする
P.64～65		◆[作家の生涯と作品] ル・コルビュジエ
P.66～67	資料	●人物を撮影する
P.68～69		◆[比べて鑑賞する] 人を撮る
P.70～71		●テーマを決めて撮影する
P.72～73		◆写真表現の可能性
P.74～75		●アニメーションをつくる
P.76		作家の手法 伊藤有彦
P.78～79		さまざまな絵の具
P.80～83		鉛筆で描く
P.84～85		水彩絵の具で描く
P.86～87		油絵の具で描く
P.88～89	資料	●人物を撮影する
P.90～91		日本画の絵の具で描く
P.92～95		版画の技法
P.96～97		彫刻（塑造）の技法
P.98～99		文字をデザインする
P.100～101		写真を撮影する
P.102～103		映像を撮影する
P.104～105		発想の広げ方
P.106		美術館を楽しむ
P.107		美術鑑賞を楽しむ手がかかり
P.108～110	資料	美術史年表
P.111～113		デザイン史年表／写真史年表
P.114～115		色の性質
P.116～117		色の特徴を知ろう
P.118～119		色の効果
P.121～122		配色のヒント
P.123～124		色彩図鑑
P.120,125		切り離し式資料
P.120,125		混色のヒント
P.120,125		後書き

ページ	分野等	題材
P.2～3		目次／前書き
P.4～5	はじめに	心の記録、創造の源
P.6～7	絵画・彫刻	●見えるものの向こうに
P.8～9		●うつろう自然を描く
P.10～11		●記憶の中の風景
P.12～13		◆[作品鑑賞室] 誘惑に打ち勝つ聖人
P.14～15		◆[見る・知る・学ぶ] 絵に隠された謎
P.16～17		●シルクスクリーンの世界
P.18～19		●銅版画の世界
P.20～21		◆[作家の生涯と作品] コンスタンティン・ブランクーシ
P.22～23		●身近な材料でつくる
P.24～25		●想像上の生物をつくる
P.26～27	デザイン	◆[作品鑑賞室] 力強い自然
P.28～29		◆[見る・知る・学ぶ] ものに宿る魂
P.30～31		●色を選ぶ
P.32～33		●情報を視覚化するデザイン
P.34～35		●統一感をつくるデザイン
P.36～37		●問題を解決するデザイン
P.38～39		●座するための道具「椅子」
P.40～41		◆[作家の生涯と作品] アルヴァ・アアルト
P.42～43		●人物を撮影する
P.44～45		●構図を工夫して撮る
P.46～47	映像メディア表現	●プロモーション映像をつくる
P.48～49		●アニメーションをつくる
P.50～51		◆[見る・知る・学ぶ] 世界のアニメーション
P.52		[インタビュー 美術の仕事]
P.53		
P.54		
P.55		
P.56～57	資料	奈良美智
P.58～59		石内 都
P.60～61		水戸岡鋭治
P.62～63		遠藤彰子
P.56～57	資料	色を深く知ろう
P.58～59		油絵の具で描く
P.60～61		日本画の絵の具で描く
P.62～63		後書き

ページ	分野等	題材
P.2～3		目次／前書き
P.4～5	はじめに	社会に開かれる美術
P.6～7	絵画・彫刻	●私のいる世界
P.8～9		●鉛筆の可能性
P.10～11		◆[作品鑑賞室] 生命のサイクル
P.12～13		◆[作家の生涯と作品] 岡本太郎
P.14～15		●響き合うイメージ
P.16～17		●自然の力を生かして
P.18～19		◆[作品鑑賞室] 迫り来る龍神
P.20～21		◆[見る・知る・学ぶ] 絵画の修復
P.22～23		●書物のデザイン
P.24～25		●安心をつくるデザイン
P.26～27	デザイン	●自然との共生
P.28～29		◆[作家の生涯と作品] 田中一光
P.30～31		◆[見る・知る・学ぶ] オリンピックのデザイン
P.32～33		●光を捉える
P.34～35		●編集で広がる映像の世界
P.36～37		◆[見る・知る・学ぶ] 時代の精神を感じて
P.38～39		●ポートフォリオをつくる
P.40～45		資料
P.40～45		美術を学んで広がる未来
P.46～47		後書き

種目	教科書名	番号・略称	記号・番号	出版社名
美術I	美術1	38 光村	美I 701	光村図書出版

観 点		特 色 ・ 具 体 例		該 当 ページ
① 内 容 の 選 択 ・ 程 度				
◎学習指導要領，教科の目標を達成するために必要な教材が適切に用意されているか。	学習指導要領に示された「美術Ⅰ」の目標・内容を踏まえ，A表現・B鑑賞の題材がバランスよく，相互に関連を図りながら適切に配置されている。	教科書全般		
◎基礎的，基本的事項の理解や，その習得のため，適切な配慮がなされているか。	日本や西洋の美術だけでなくとどまらず，幅広い地域や時代の作品が多角的に取り上げられており，生涯を通して美術文化について理解が深まるよう配慮されている。			
	各題材や巻末資料の中で，作品をつくるときの手がかりや基礎的な技法が具体的に示されており，表現活動に生かすことができる。			
② 組 織 ・ 配 列 ・ 分 量				
◎内容の組織，配列，分量は，学習指導を有効に進められるように考慮されているか。	題 材	題材が学習指導要領に沿って絵画・彫刻，デザイン，映像メディア表現の分野別に整理され，バランスよく配置されている。内容が一目でわかるようインデックスで色分けされており，学習指導を進める上で使いやすいよう工夫されている。	教科書全般	
		各題材では学習のねらいを示した目標が記されており，学習指導を効果的に進めることができる。	教科書全般	
		表現中心の題材には，「作家の手法」というページが設けられている。生徒が作品の主題を生み出す手がかりとできるよう，作家の発想や制作過程が詳しく示されている。	P.4～5,8～9,24～25,28～29,35,40～41,50～51,53,57,76	
		表現中心の題材の随所に，作品を発想し制作する際に参考になる「表現のヒント」が掲載されている。	P.7,12,23,59	
		模絵や絵巻物，浮世絵が和紙風の用紙に印刷されており，本物に近い風合いで鑑賞することができる。	P.13～20	
	巻 末 資 料	鑑賞中心の題材「比べて鑑賞する」では，作品を比較鑑賞することで共通点や相違点について対話したり，それぞれの作品のよさを感じ取ったりするなど，実感的に理解を深めることができる。	P.10～11,30～31,60～61,68～69	
		巻末に「鉛筆で描く」「水彩絵の具で描く」「油絵の具で描く」といった技法についての資料が設けられており，制作の流れや用具の使い方を適宜参照しながら学習指導を進めることができる。	P.80～103	
		色彩に関する巻末資料は計10ページ設けられ，(共通事項)の指導に生かすことができる。「混色のヒント」「色彩図鑑」は教科書から切り離すことができ，持ち運んで活用することができる。	P.114～119,121～124	
		観音開き3ページにわたる「美術史年表」では，日本及び諸外国の美術を歴史の流れや文化的背景とともに理解することができる。	P.108～110	
		「デザイン史年表」では社会状況の変化に対応したデザインの歴史が，「写真史年表」では撮影機材の進歩の歴史と各時代の写真作品が整理され，デザインや映像メディア表現の分野の歴史を学ぶことができる。	P.111～113	
	Q R コ ン テ ン ツ	各題材や巻末資料には適宜QRコードが掲載されており，関連するQRコンテンツとリンクしている。大きく掲載された鑑賞図版は，動画付きの音声ガイドとリンクしており，鑑賞を深めることができる。	教科書全般	
		表現中心の題材および巻末資料は，鉛筆デッサンをはじめ水彩絵の具を用いた風景画や油絵の具を用いた静物画など，さまざまな技法動画とリンクしている。	P.6,12,80,82,84,86,89,90,93,102	
		全国の生徒作品を掲載したQRコンテンツが，関連する題材とリンクしている。多様な生徒作品を鑑賞し，自分の表現に生かすことができる。	P.6,22,26,32,48,66,70,102	
	③ 表 記 ・ 表 現 お よ び 使 用 上 の 便 宜			
◎学習意欲を高めるための配慮がなされているか。	表 記 ・ 表 現	用語や表記は統一されており，記述のしかたも適切である。写真・図版も鮮明で効果的である。	教科書全般	
◎用語・記号の取り上げ方や記述のしかたは適切か。		教科書に使用されているマークは，誰もが識別しやすい形や色で示されている。題材の随所には関連する巻末の資料ページを示したマークがあり，学習内容に関連した資料を活用しやすいよう工夫されている。		
◎印刷の鮮明さ，活字の大きさ，行間，製本などは適切か。	造 本	A4ワイド判(297×232mm)の紙面を生かし，2ページ大以上での作品掲載などが取り入れられている。迫力ある紙面で生徒の学習意欲を高めるとともに，作品を細部まで鑑賞することができる。		
	U D ・ 特 別 支 援 教 育 へ の 配 慮	カラーユニバーサルデザイン，特別支援教育の観点から専門家の校閲がなされており，誰もが学習しやすいよう配慮して紙面がつくられている。 活字は鮮明で読みやすい大きさ，フォントが使用されており，キャプションなどの比較的小さい文字にはUDフォントを使用している。		
④ 総 合 所 見				
◎上記観点から見た，全体的・総合的な当教科書の特徴。	学習指導要領に合わせて分野別に整理して構成され，幅広い表現を支援するヒントや多角的な鑑賞体験の提案，表現と鑑賞の各題材で活用できる多様な資料などが盛り込まれている。「美術の幅広い創造活動」を通して，「生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力」を育成するという「美術Ⅰ」の学習指導要領の目標に合致している。	教科書全般		

検討の観点と内容の特色 高等学校用 美術2

種目	教科書名	番号・略称	記号・番号	出版社名
美術Ⅱ	美術2	38 光村	美Ⅱ 303	光村図書出版

観 点		特 色 ・ 具 体 例		該 当 ページ
① 内 容 の 選 択 ・ 程 度				
◎学習指導要領，教科の目標を達成するために必要な教材が適切に用意されているか。 ◎基礎的，基本的事項の理解や，その習得のため，適切な配慮がなされているか。	学習指導要領に示された「美術Ⅱ」の目標・内容を踏まえ，A表現・B鑑賞の題材がバランスよく，相互に関連を図りながら適切に配置されている。		教科書全般	
	「美術Ⅰ」の学習を基礎にして美術の諸能力を伸ばすことをねらいとする「美術Ⅱ」の性格を踏まえ，より表現や鑑賞の能力を深められるよう学習内容の段階化が図られている。			
	日本や西洋の美術だけにとどまらず，幅広い地域や時代の作品や，広く社会の中で活躍する作家などが取り上げられており，生涯を通して美術文化について理解が深まるよう配慮されている。			
	各題材や巻末資料の中で，作品をつくる時の手がかりや基礎的な技法が具体的に示されており，表現活動に生かすことができる。			
② 組 織 ・ 配 列 ・ 分 量				
◎内容の組織，配列，分量は，学習指導を有効に進められるように考慮されているか。	題 材	題材が学習指導要領に沿って絵画・彫刻，デザイン，映像メディア表現の分野別に整理され，バランスよく配置されている。内容が一目でわかるようインデックスで色分けされており，学習指導を進める上で使いやすいよう工夫されている。	教科書全般	
		各題材では学習のねらいを示した目標が記されており，学習指導を効果的に進めることができる。	教科書全般	
		A表現では，絵画・彫刻，デザイン，映像メディア表現それぞれにおいて取り上げる活動のバランスと分量が配慮されている。また各題材で「美術Ⅰ」での学習を踏まえ，より創造的な表現を促すために，「美術Ⅰ」からの内容の段階化が図られている。	表現中心の題材全般	
		表現中心の題材では，作品を発想し制作する際に参考になる「制作ノート」が示されている。	表現中心の題材全般	
		B鑑賞では，「作家の生涯と作品」「見る・知る・学ぶ」「作品鑑賞室」などの題材が設けられ，多角的な鑑賞体験への提案がなされている。作品の時代的背景や宗教，社会との関わりにも触れられており，美術文化についての理解をより深められる内容になっている。	鑑賞中心の題材全般	
		「作品鑑賞室」では，鑑賞を深めるための生徒への問いかけをQマークをつけて記し，意欲的に学習できるようになっている。	P.12,27	
	巻 末 資 料	「色を深く知ろう」という色彩についての資料が設けられており，表現と鑑賞の各題材で必要に応じて活用することができる。	P.56～57	
		「油絵の具で描く」「日本画の絵の具で描く」といった技法についての資料が設けられており，制作の流れや用具の使い方を参照しながら学習指導を進めることができる。	P.58～61	
		「インタビュー 美術の仕事」では，美術家やデザイナーの生き方，考え方などを紹介している。生徒の美術への興味・関心を喚起させ，職業について意識させる内容である。	P.52～55	
③ 表 記 ・ 表 現 お よ び 使 用 上 の 便 宜				
◎学習意欲を高めるための配慮がなされているか。 ◎用語・記号の取り上げ方や記述のしかたは適切か。 ◎印刷の鮮明さ，活字の大きさ，行間，製本などは適切か。	表 記 ・ 表 現	用語や表記は統一されており，記述のしかたも適切である。写真・図版も鮮明で効果的である。	教科書全般	
		教科書に使用されているマークは，誰もが識別しやすい形や色で示されている。		
	造 本	A4 ワイド判（297 × 232mm）の紙面を生かし，2ページ大以上での作品掲載などが取り入れられている。迫力ある紙面で生徒の学習意欲を高めるとともに，作品を細部まで鑑賞することができる。		
		製本が堅牢である。表紙はポリプロピレンラミネート加工により，画材や粘土などによる汚れにも対応できる。また，環境に配慮した紙と植物油インキが使用されている。		
	U D ・ 特 別 支 援 教 育 へ の 配 慮	カラーユニバーサルデザイン，特別支援教育の観点から専門家の校閲がなされており，誰もが学習しやすいよう配慮して紙面がつくられている。		
		活字は鮮明で読みやすい大きさ・フォントを使用している。		
④ 総 合 所 見				
◎上記観点から見た，全体的・総合的な当教科書の特徴。	学習指導要領に合わせて分野別に整理して構成され，表現を支援するヒントや多角的な鑑賞体験の提案，表現と鑑賞の各題材で活用できる資料などが盛り込まれている。「創造的な諸活動」を通して，「個性豊かな表現と鑑賞の能力を伸ばし，美術文化についての理解を深める」という「美術Ⅱ」の学習指導要領の目標に合致している。			教科書全般

検討の観点と内容の特色 高等学校用 美術3

種目	教科書名	番号・略称	記号・番号	出版社名
美術Ⅲ	美術3	38 光村	美Ⅲ 303	光村図書出版

観 点		特 色 ・ 具 体 例		該 当 ページ	
① 内 容 の 選 択 ・ 程 度					
◎学習指導要領，教科の目標を達成するために必要な教材が適切に用意されているか。		学習指導要領に示された「美術Ⅲ」の目標・内容を踏まえ，A表現・B鑑賞の題材がバランスよく，相互に関連を図りながら適切に配置されている。			
◎基礎的，基本的事項の理解や，その習得のため，適切な配慮がなされているか。		「美術Ⅰ」および「美術Ⅱ」の学習を基礎にして，美術の諸能力を伸ばすことをねらいとする「美術Ⅲ」の性格を踏まえ，より表現や鑑賞の能力を深められるよう学習内容の段階化が図られている。			
		日本や西洋の美術だけにとどまらず，幅広い地域や時代の作品が取り上げられている。また現代社会や美術に関わる仕事をテーマにしたページを設け，社会や文化への視野を広げることができるよう工夫されている。			
		各題材の中で，作品をつくる時の手がかりや制作に役立つ資料が示されており，表現に生かすことができる。			
② 組 織 ・ 配 列 ・ 分 量					
◎内容の組織，配列，分量は，学習指導を有効に進められるように考慮されているか。		題 材	題材が学習指導要領に沿って絵画・彫刻，デザイン，映像メディア表現の分野別に整理され，バランスよく配置されている。内容が一目でわかるようインデックスで色分けされており，学習指導を進める上で使いやすいよう工夫されている。	教科書全般	
			各題材では学習のねらいを示した目標が記されており，学習指導を効果的に進めることができる。	教科書全般	
			A表現では，絵画・彫刻，デザイン，映像メディア表現それぞれにおいて取り上げる活動のバランスと分量が配慮されている。B鑑賞では「作家の生涯と作品」「見る・知る・学ぶ」「作品鑑賞室」などの題材が設けられ，多角的な鑑賞体験への提案がなされている。	P.6～37	
			表現の題材では，作品を発想し制作する際に参考になる「制作ノート」が示されている。	表現中心の題材全般	
			「作品鑑賞室」では，鑑賞を深めるための生徒への問いかけをQマークをつけて記し，意欲的に学習できるようになっている。	P.11,19	
		巻 末 資 料	「美術を学んで広がる未来」では，美術に関わる職業が紹介され，その職業に携わる人のインタビューが掲載されている。美術への興味・関心を喚起させ，職業について意識させる内容である。	P.40～45	
			卒業を控えた生徒の参考となるように，巻末に「ポートフォリオをつくる」，キャリア教育を意図した「美術を学んで広がる未来」といった資料が設けられている。	P.38～45	
③ 表 記 ・ 表 現 お よ び 使 用 上 の 便 宜					
◎学習意欲を高めるための配慮がなされているか。		表 記 ・ 表 現	用語や表記は統一されており，記述のしかたも適切である。写真・図版も鮮明で効果的である。	教科書全般	
◎用語・記号の取り上げ方や記述のしかたは適切か。			教科書に使用されているマークは，誰もが識別しやすい形や色で示されている。		
◎印刷の鮮明さ，活字の大きさ，行間，製本などは適切か。		造 本	A4ワイド判（297×232mm）の紙面を生かし，2ページ大以上での作品掲載などが取り入れられている。迫力ある紙面で生徒の学習意欲を高めるとともに，作品を細部まで鑑賞することができる。		
			製本が堅牢である。表紙はポリプロピレンラミネート加工により，画材や粘土などによる汚れにも対応できる。また，環境に配慮した紙と植物油インキが使用されている。		
		UD・特別支援教育への配慮	カラーユニバーサルデザイン，特別支援教育の観点から専門家の校閲がなされており，誰もが学習しやすいよう配慮して紙面がつくられている。		
			活字は鮮明で読みやすい大きさ・フォントを使用している。		
④ 総 合 所 見					
◎上記観点から見た，全体的・総合的な当教科書の特徴。		学習指導要領に合わせて分野別に整理して構成され，表現を支援するヒントや多角的な鑑賞体験の提案，卒業を控えた生徒の参考になる資料などが盛り込まれている。「創造的な諸活動」を通して，「生涯にわたり美術を愛好する心情と美術文化を尊重する態度を育てるとともに，感性と美意識を磨き，個性豊かな美術の能力を高める」という「美術Ⅲ」の学習指導要領の目標に合致している。			
		教科書全般			